

力強い農業のために

特集1

消費者の皆様が笑顔になるよう、おいしい農畜産物をいつでもお届けすること、それが私たちの使命です。
 私たちJAは組合員とともに、信頼される「力強い地域農業」の創造に取り組んでいます。



作物別部会の取り組み

選ばれる産地を目指して安全・安心で高品質な農畜産物をつくるために生産者自らが協議をして、ルールを作り生産者全員でルールに沿った肥培管理、出荷体制に取り組んでいます。

JAは各生産組織の事務局として、予算管理はもちろん、組織活動に関する事務作業や会議等で各生産組織の構成員である生産者の皆さんと一体になって活動を行っています。

作物の生産にあたってのルールづくり



同じ作物を作る仲間が集まって、その作物に関する栽培技術などJAや普及センターと一体となって、学習会や畑などの現地で講習会を開催したり、それぞれの生産者の畑やハウスを巡回し、生育の確認を行ったり、収量の調査を行うなど、高品質・高収量の生産を目指し、生産者間でも切磋琢磨しています。

高品質・高収量・安定供給を目指した取り組み



産地の責任として消費者の皆様へ農畜産物を安定的に供給することが求められています。そのためにも、玉ねぎなどでは、早生や中生、晩生などの品種を組み合わせることで、出荷時期を調整することで、長い期間消費者の皆様へ供給出来るよう工夫しています。

より信頼される産地に向けて



生産者自らが都府県の市場や量販店に出向き、直接自分たちが作った生産物の価値を伝え、また消費者の皆様への生の声に触れることで、「求められることに応えていく」信頼される産地に向けた取り組みを行っています。

所得向上に向けた取り組み

1 販売力の強化



当JAでは安全安心な農畜産物を安定的に消費者の皆様へお届け出来るよう、販売力の強化に繋がる施設整備を計画的に進めており、農産物の品質維持と安定供給に貢献しております。平成19年度に小麦乾燥調製貯蔵施設、平成24年度に馬鈴しょ集出荷選別施設、平成31年度に玉ねぎ集出荷施設・冷蔵貯蔵施設、令和2年度にCA貯蔵庫、令和3年度に玉ねぎ茎葉処理施設を竣工し、農産物の品質の維持と安定供給に貢献しております。

今後、輸入農畜産物との競合が強まる可能性から、農業所得向上のために、国内への安定的な供給を前提としながら、国外への輸出に取り組んでいくことも求められています。

当JAでは玉ねぎについて、国内需給調整の観点から道内のJAと連携し台湾を中心に輸出を行っており、更なる販売チャネルや消費者ニーズの開拓を進める計画です。

2 きたみらいブランドの確立と付加価値の向上



2009年より加工商品の開発・販売の専門部署を設置し、きたみらいブランドの確立と農畜産物の更なる付加価値向上を目指した商品づくりに取り組んでいます。

地元農畜産物を最大限利用し、「他にない」、「きたみらいらしさ」を表現できる商品づくりをコンセプトに、これまで20以上の商品を開発・販売し、売上は約1億円となっております。

また、地域イベント・食品流通業界の展示商談会への参加や、学校給食・地元飲食店等への農畜産物・加工商品の供給により、JAきたみらい・地産地消のPRを行っております。

3 効率効果的な事業展開によるコスト低減



当JAは合併当初から地域の融合と合併メリットの追求を目指して様々な角度から経営改革を実践しています。

農業経営の面では、スケールメリットを最大限発揮する施設の再編・集約を実施し、コスト低減肥料の推進や玉ねぎ段ボールのフラップ(ふた)の改良によるコストカット、スマート農業の導入に向けた取り組み等、コスト削減に努めております。

JA経営の面では、「経営資源の選択と集中」の観点から業務の再編を行っております。



林 辰憲
(平成24年入組)

販売企画部組織振興東グループ主査
端野地区(馬鈴しょ・野菜担当)

業務について

- ・青果物の集荷、販売
- ・生産組織事務局(端野町馬鈴しょ振興会、端野町種子馬鈴薯生産組合)

担当職員の一人として

生産組織事務局として、組織活動の充実化を図るだけでなく、少しでも組合員皆様の農業所得向上に繋がるよう、生産現場の状況把握と有益な情報の共有に日々努めております。

また、一層厳しさを増す農業情勢下ではありますが、少しでも多くの組合員皆様へ「農業をやっていて良かった」とやりがいを感じて頂けるよう、産地と消費地を繋ぐ、時代の変化に合わせた青果・農産物PRIにも取り組んで参りたく存じます。

関連するSDGsへの取り組み

